

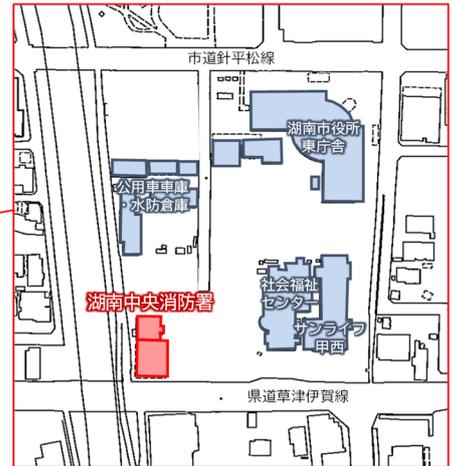
はじめに

湖南中央消防署は、昭和55年に建設されて以降44年が経過し、庁舎の全体的な老朽化が進み、耐震性も低いため、大規模災害時には防災拠点として十分な機能が果たせないおそれがあり、その他にも様々な問題を抱えています。

市民の安全安心を確保するためには、さらなる消防力の充実・強化が求められるとともに、社会情勢の変化に対応した防災拠点施設の整備が急務となっています。

本計画は、湖南中央消防署が抱える様々な課題等を整理したうえで整備の基本方針等を設定し、適切な規模、立地、ゾーニング等を検討したものであり、これを踏まえ、今後の基本設計や実施設計により具体的な設計を行っていきます。

湖南中央消防署の位置・概要



所在地	滋賀県湖南市中央一丁目1番地
建築年	昭和55(1980)年(築44年)
延床面積	庁舎: 296.93㎡ 車庫: 320.00㎡ 計: 616.93㎡
構造	庁舎: 鉄筋コンクリート造 車庫: 鉄骨造
階数	庁舎: 2階建て 車庫: 平屋建て

現庁舎の問題点

【建物全体】

- 耐震不足
- 施設・設備の老朽化
- 省エネルギー、自然エネルギーの活用不足

【消防執務スペース】

- 消防執務スペース・設備不足 (防火衣収納室、消毒室、救急資材置場、出勤前ミーティングスペース等)
- 車庫の狭隘化・機能不備 (シャッター)
- 災害対応機能不足 (非常用電力・ライフライン、通信指令センター機能等)
- 消防能力アップ機能不足 (トレーニング室、屋外訓練設備等)

【生活スペース】

- 女性職員採用の対応不足 (更衣室、仮眠室、トイレ等)
- 感染症対策、収納不足 (仮眠室等)
- 施設の旧式化・老朽化 (浴室、トイレ、給湯、空調等)

【来庁者対応スペース】

- 来庁者対応スペース不足 (協議スペース、展示スペース、研修室等)

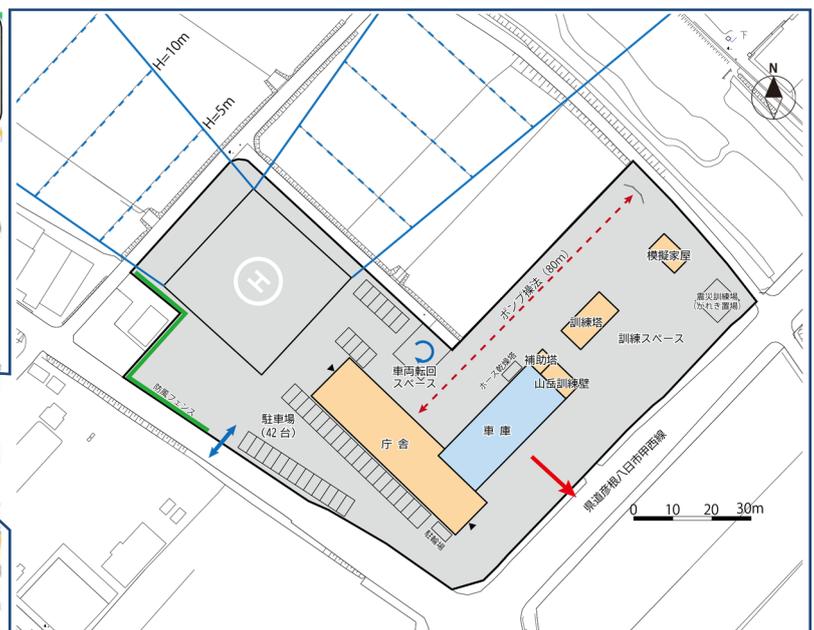
【事務スペース】

- 事務スペースの狭隘化 (事務室、書庫等)

【消防署の立地】

- 消防活動管轄エリアの偏り (石部分署との距離が近い、下田地区周辺への緊急車両到着に時間がかかる等)

建設場所・敷地ゾーニング



基本理念

社会情勢の変化や現状の問題点等を踏まえ、湖南中央消防署整備の基本理念を以下のように設定します。

「いつか」と「いつも」を支え 『安全・安心』を未来につなぐ消防庁舎

人口減少・少子高齢化の進行、頻発化・激甚化する自然災害等を背景に複雑化する消防ニーズに応えつつ、市民の日々の暮らしを支える『安全・安心』を未来につないでいきます。

基本方針

湖南中央消防署整備の基本理念に基づき、基本方針を以下のように設定します。



面積規模

消防庁舎の整備においては、現庁舎に不足している以下の機能・スペースを確保するため、全体面積を約 **1,800 m²**と想定しています。

- 十分な広さを確保した消防執務スペース・事務スペース
- 女性活躍を見据えた生活スペース
- 感染症対策に配慮した消防執務スペース、生活スペース
- 庁舎全体のユニバーサルデザイン化

整備方法

現庁舎の整備方法について、耐震改修・増築による整備および建替えによる整備の2パターンについて、かかる概算費用（30年間のライフサイクルコスト）を比較した結果、建替えの方が安くなることから、**建替えによる整備**を選択します。

概算事業費

令和6年度概算時点で、総事業費は、**約 19.6 億円**を想定しています。現在は、建築資材費や人件費が高騰しており、今後の見通しも不透明な状況ではありますが、市民負担増とならないよう当初の概算額内で収めるよう努めます。

財源

建設工事における財源については、国の財政支援措置である「緊急防災・減災事業債」など、財政上の優遇措置がある地方債を最大限活用できるよう検討を進めていきます。

事業手法

本整備においては、**DB方式（実施設計・施工の一括発注）**による整備を選択します。

事業スケジュール

現在、用地取得、移転補償を進めています。今後、敷地造成を進めるのと並行して、基本計画に基づき基本設計、実施設計を策定していきます。その後、建築工事に取り掛かり、令和9年度の供用開始を予定しています。なお、スケジュールは関係機関協議等により変更になる可能性があります。

	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和9(2027)年度
用地取得	用地取得、移転補償			
敷地造成		調査・設計 造成工事		供用開始
〈新庁舎〉設計、工事等	基本計画	基本設計	実施設計、確認申請 建設工事	外構工事 移転等
〈現庁舎周辺〉整備				現庁舎解体 跡地利用 湖南省役所新庁舎建設工事